

次期北海道循環器病対策推計画(案) 意見一覧(書面審議)

	氏名	所属等	該当箇所	意見の内容	(案) への対応
1	若狭 哲	北海道大学大学院医学研究院心臓血管外科学教室	第2章 第1節 P3	<p>脳卒中、心筋梗塞に加えて、大動脈緊急症の特徴なども記載してください。</p> <p>第2章 第1節循環器病の特徴</p> <p>1) 循環器病は、急激に発症し、数分から数時間の単位で生命に関わる重大な事態に陥り、突然死に至ることがあります。特に大動脈解離や破裂はすぐに手術を施さなければ救命は困難です。たとえ死に至らなくとも、特に脳卒中においては、重度の後遺症を残すことも多くあります。発症後早急に適切な治療が行われれば、後遺症を含めた予後が改善される可能性があります。回復期及び慢性期には、再発や増悪を来しやすいといった特徴があります。</p> <p>2) また、適切な治療を受けられなければ、予後に悪影響を及ぼす可能性の高い循環器病もあります。例えば、心房細動は、脳卒中や心不全の発症及び増悪にも影響を与えます。大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症などの弁膜症は、早期の症状には気が付かないことも多い一方で、治療が遅れると予後が悪くなる傾向があり、適切な診断、治療及び重症化予防を行うことが必要です。大動脈瘤は基本的に無症状ですが、突然破裂して死に至ることがあります。</p>	<p>第2章 第1節循環器病の特徴</p> <p>1) については、下記のとおり文言追加いたします。 循環器病は、急激に発症し、数分から数時間の単位で生命に関わる重大な事態に陥り、突然死に至ることがあります。特に大動脈解離や破裂はすぐに手術を施さなければ救命は困難です。脳卒中においては、たとえ死に至らなくとも重度の後遺症を残すことも多くあり、発症後早急に適切な治療が行われれば、後遺症を含めた予後が改善される可能性があります。回復期及び慢性期には、再発や増悪を来しやすいといった特徴があります。</p> <p>2) については、1) と重複する内容のため、1) で合わせて整理しております。</p>
2			第2章 第4節 1 P8	<p>第2章 第4節 道内における循環器病の状況 罹患状況に大動脈疾患の数値を追加できるでしょうか？</p>	<p>○国が公表しているデータに大動脈疾患のデータがありませんでした。</p>
3			第4章 第2節 3 P31	<p>大動脈の緊急手術が可能な医療機関は45か所とありますが、詳細が示されていません。これはデータがないということでしょうか？ 次項参照に今後基準を設けていただけると幸いです。</p>	<p>○「大動脈緊急症の開心術及び大動脈瘤手術の対応な医療機関」数に数については、北海道医療情報機能システムの情報を使用しております。</p> <p>○抽出条件としては、「開心術」又は「大動脈瘤手術」ができ、「心臓血管外科」を標榜している医療機関となります。</p> <p>○ R5.4 月のデータでは45か所でしたが、R6.1月の最新データは38か所となっておりますので、医療数を修正いたします。</p> <p>○公表基準につきましては、今回は北海道医療情報システムの情報を使用しておりますが、今後、小委員会で検討させていただきます。</p>
5	若梅 裕	日本脳卒中友の会 北海道支部	第4章 第2節 4	<p>(リハビリテーションについて) 計画ではリハビリのことが丁寧に記載されているが、リハビリのいない脳卒中患者をスローガンに進めている。リハビリは誰かにやってもらうのではなく、自分のことは自分ですることが大事。</p>	<p>○御意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>